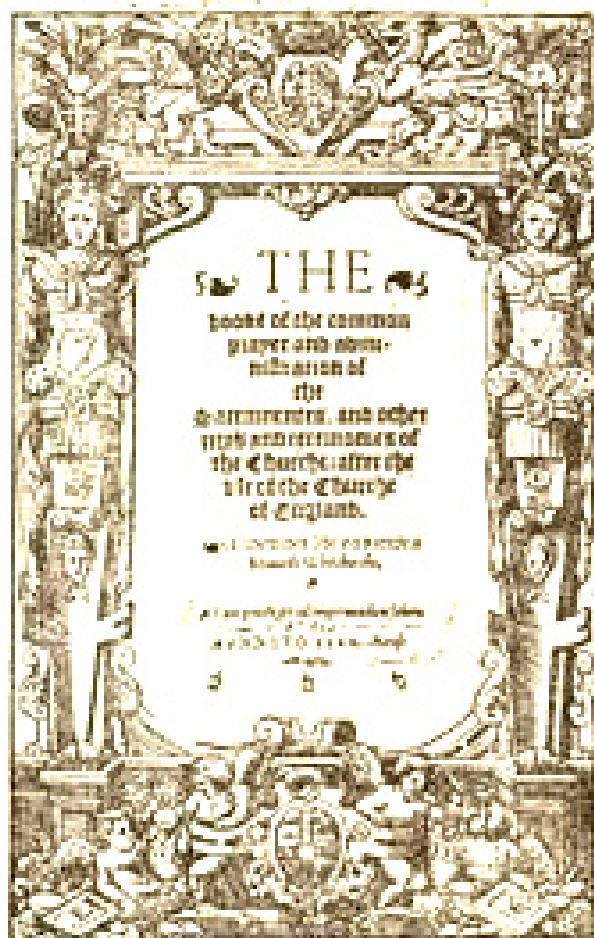


2024 年度

ウィリアムス神学館要覧



日本聖公会京都教区

ウィリアムス神学館

THE BISHOP WILLIAMS' THEOLOGICAL SEMINARY

2024年度 週間講義表

1学期 4月3日(水)～7月11日(木) / 2学期 9月3日(火)～12月12日(木) / 3学期 1月7日(火)～3月7日(金)

(授業開始～終了) 1学期 4月9日(火)～6月22日(土) / 2学期 9月4日(水)～11月22日(金) / 3学期 1月8日(水)～2月15日(土)

	7:00～ 9:00		I 9:00～10:25	II 10:35～12:00	12:05～13:30	III 13:30～14:55	IV 15:15～16:40	17:30～		
火	朝の礼拝 ・ 朝食	1年	聖餐式 (チャペル) (9:00-9:50)	※「説教セミナー」を 2-3学期に数回、 全学で行なう 日本基督教史(三輪)-Ⓡ 【4,5月のみ】	昼の祈り ・ 昼食	教会史(岩城)-Ⓡ		夕の礼拝 ・ 夕食		
		2年				バイコンII(前川)-				
		3年				牧会と宣教(岩城)-Ⓡ				
水	朝の礼拝 ・ 朝食	1年	教会音楽(辻)-Ⓢ	バイコンI(林/前川)-Ⓡ	嘆願 ・ 昼食	VTS J.イエー教授 特別講義(全学年)【4,5月のみ】-Ⓡ		夕の礼拝 ・ 夕食		
		2年				聖公会論(林)-	霊性の形成と変容-Ⓢ			
		3年				日本基督教史(三輪)-Ⓡ	(全学年)【6月以降】			
						【6月以降】				
木	朝の礼拝 ・ 朝食	1年	神学基礎演習(濱崎)-Ⓡ		昼の祈り ・ 昼食	旧約入門(勝村)-Ⓡ		夕の礼拝 ・ 夕食		
		2年				教理学I(岩城)-	旧約釈義(勝村)-Ⓡ			
		3年				教理学II(濱崎)-Ⓡ				
金	朝の礼拝 ・ 朝食	1年	ギリシア語I(高地)-Ⓡ		嘆願 ・ 昼食	英書講読(黒田)-Ⓡ		夕の礼拝 ・ 夕食		
		2年				礼拝学I(越川)-	教理学特講(1学期/津田)-		臨床牧会訓練(13:10より)	
		3年					説教論(黒田)-Ⓡ		法憲法規(3学期/相原)-Ⓡ	
土	朝の礼拝 ・ 朝食	1年	新約入門(前川)-Ⓡ		昼の祈り ・ 昼食	*教室：大教室-Ⓡ、中教室-Ⓡ、 小教室-Ⓢ、食堂-Ⓢ 都合により変更されることもあります。 *網かけ部分：今年度は開講されません。				
		2年							ギリシア語II(前川)-	
		3年							新約神学(嶺重)-Ⓡ	ギリシア語III(前川)-Ⓡ

《2024 年度年間授業・行事予定》

4 月			5 月			6 月					
日	曜	予 定	実	日	曜	予 定	実	日	曜	予 定	実
1	月	復活後月曜日 入 寮 日		1	水	使徒聖ピリポ・聖ヤコブ日		1	土		①
2	火	復活後火曜日 9:30 ウ主教碑清掃		2	木			2	日	聖霊降臨後第2主日	④
3	水	復活後水曜日 11:00 入学礼拝		3	金			3	月		
4	木	復活後木曜日 オリエンテーション		4	土		①	4	火		
5	金	復活後金曜日		5	日	復活節第6主日	④	5	水		
6	土	復活後土曜日	×	6	月			6	木		
7	日	復活節第2主日 実習先教会礼拝出席	④	7	火			7	金		
8	月			8	水			8	土		①
9	火	1学期授業開始		9	木	昇天日		9	日	聖霊降臨後第3主日	④
10	水			10	金			10	月		
11	木			11	土		①	11	火	使徒聖バルナバ日	
12	金			12	日	復活節第7主日	④	12	水		
13	土	1学期教会実習開始	①	13	月			13	木		
14	日	復活節第3主日	④	14	火			14	金		
15	月			15	水			15	土		①
16	火			16	木			16	日	聖霊降臨後第4主日	④
17	水			17	金			17	月		
18	木			18	土		①	18	火		
19	金			19	日	聖霊降臨日	④	19	水		
20	土		①	20	月			20	木		
21	日	復活節第4主日	④	21	火			21	金		
22	月			22	水			22	土	1学期授業終了	①
23	火			23	木			23	日	聖霊降臨後第5主日	④
24	水			24	金			24	月	洗礼者聖ヨハネ誕生日	
25	木	福音記者聖マルコ日		25	土		①	25	火		
26	金			26	日	三位一体主日 (聖霊降臨後第1主日)	④	26	水	試験準備・補講週	
27	土		×	27	月			27	木		
28	日	復活節第5主日	④	28	火			28	金	※CPE あり	
29	月			29	水			29	土	使徒聖パウロ・ペテロ日	×
30	火			30	木			30	日	聖霊降臨後第6主日	④
				31	金						

7 月				8 月				9 月			
日	曜	予 定	実	日	曜	予 定	実	日	曜	予 定	実
1	月			1	木			1	日	聖霊降臨後第15主日	
2	火			2	金			2	月	入 寮 日	
3	水			3	土			3	火	面 接 (成績関係)	
4	木	試 験 週		4	日	聖霊降臨後第11主日		4	水	2学期授業開始	
5	金	※CPEあり		5	月			5	木		
6	土		①	6	火	主イエス変容の日		6	金		
7	日	聖霊降臨後第7主日 1学期教会実習終了	②	7	水			7	土		
8	月			8	木			8	日	聖霊降臨後第16主日 他教派礼拝出席	
9	火	面接(礼拝・生活・学び)		9	金			9	月		
10	水	面接予備日		10	土			10	火		
11	木	終 業 日		11	日	聖霊降臨後第12主日		11	水		
12	金			12	月			12	木		
13	土	出 寮 日		13	火			13	金		
14	日	聖霊降臨後第8主日		14	水			14	土		①
15	月			15	木	主の母聖マリヤ日		15	日	聖霊降臨後第17主日 2学期教会実習開始	②
16	火			16	金			16	月		
17	水			17	土			17	火		
18	木			18	日	聖霊降臨後第13主日		18	水		
19	金			19	月			19	木		
20	土			20	火			20	金		
21	日	聖霊降臨後第9主日		21	水			21	土	福音記者使徒聖マタイ日	①
22	月	マグダラの聖マリヤ日		22	木	体験入学・入学案内・願書 VIA MEDIA 発送(予定)		22	日	聖霊降臨後第18主日	②
23	火			23	金			23	月		
24	水			24	土	使徒聖バルトロマイ日		24	火		
25	木	使徒聖ヤコブ日 ニュース発送(予定)		25	日	聖霊降臨後第14主日		25	水		
26	金			26	月			26	木		
27	土			27	火			27	金		
28	日	聖霊降臨後第10主日		28	水			28	土		①
29	月			29	木			29	日	聖霊降臨後第19主日	②
30	火			30	金			30	月	聖ミカエル及び諸天使の日	
31	水			31	土						

10 月			11 月			12 月				
日	曜	予 定	日	曜	予 定	実	日	曜	予 定	実
1	火	体験入学	1	金	諸聖徒日		1	日	降臨節第1主日	④
2	水		2	土	カナダ研修		2	月	14:00 レクイエム	
3	木		3	日	聖霊降臨後第24主日		3	火		
4	金		4	月			4	水	試 験 週	
5	土	①	5	火			5	木		
6	日	聖霊降臨後第20主日	6	水			6	金	※CPEあり	
7	月		7	木			7	土		①
8	火		8	金	リセス		8	日	降臨節第2主日 2学期教会実習終了	④
9	水		9	土		×	9	月		
10	木		10	日	聖霊降臨後第25主日	×	10	火	面接(礼拝・生活・学び)	
11	金		11	月			11	水	面接予備日	
12	土	①	12	火			12	木	終 業 日	
13	日	聖霊降臨後第21主日	13	水			13	金		
14	月	9:30 ウ主教碑清掃	14	木			14	土	出 寮 日	
15	火		15	金			15	日	降臨節第3主日	
16	水		16	土		①	16	月		
17	木		17	日	聖霊降臨後第26主日	④	17	火		
18	金	福音記者聖ルカ日	18	月			18	水		
19	土	①	19	火			19	木	ニュース発送(予定)	
20	日	聖霊降臨後第22主日	20	水			20	金		
21	月		21	木			21	土	使徒聖トマス日	
22	火		22	金	2学期授業終了		22	日	降臨節第4主日	
23	水		23	土	(京都教区会)	×	23	月		
24	木		24	日	降臨節前主日	④	24	火		
25	金		25	月			25	水	降誕日	
26	土	①	26	火			26	木	聖ステパノ日	
27	日	聖霊降臨後第23主日	27	水	試験準備・補講週		27	金	福音記者使徒聖ヨハネ日	
28	月	使徒聖シモン・ユダの日	28	木			28	土	聖なる幼子の日	
29	火		29	金	※CPEあり		29	日	降誕後第1主日	
30	水	カナダ研修	30	土	使徒聖アンデレ日	×	30	月		
31	木						31	火		

1 月				2 月				3 月			
日	曜	予 定	実	日	曜	予 定	実	日	曜	予 定	実
1	水	主イエス命名日		1	土		①	1	土		①
2	木			2	日	被献日	㊦	2	日	大齋節前主日 3学期教会実習終了	㊦
3	金			3	月			3	月		
4	土			4	火			4	火	面接(礼拝・生活・学び)	
5	日	降誕後第2主日		5	水	入学試験		5	水	大齋始日 面接予備日	
6	月	顕現日 入寮日		6	木			6	木		
7	火	面接(成績関係)		7	金			7	金	11:00 卒業礼拝	
8	水	3学期授業開始		8	土		①	8	土		
9	木			9	日	顕現後第5主日	㊦	9	日	大齋節第1主日	
10	金	法憲法規①		10	月			10	月		
11	土			11	火			11	火		
12	日	顕現後第1主日 他教派礼拝出席		12	水			12	水		
13	月			13	木			13	木		
14	火			14	金			14	金		
15	水			15	土	3学期授業終了	①	15	土		
16	木			16	日	顕現後第6主日	㊦	16	日	大齋節第2主日	
17	金	入学願書〆切 法憲法規②		17	月			17	月		
18	土		①	18	火			18	火		
19	日	顕現後第2主日 3学期教会実習開始	㊦	19	水			19	水	聖ヨセフ日	
20	月			20	木	試験準備・補講週		20	木	ニュース発送(予定)	
21	火			21	金			21	金		
22	水			22	土		×	22	土		
23	木			23	日	顕現後第7主日	㊦	23	日	大齋節第3主日	
24	金	法憲法規③		24	月	使徒聖マッテヤ日		24	月		
25	土	使徒聖パウロ回心日	①	25	火			25	火		
26	日	顕現後第3主日	㊦	26	水			26	水		
27	月			27	木	試験週		27	木		
28	火			28	金			28	金		
29	水							29	土		
30	木							30	日	大齋節第4主日	
31	金	法憲法規④						31	月		

《ウイリアムス神学館の礼拝》

礼拝は、ウイリアムス神学館における神学教育を根底から支える最も大切な行為である。礼拝を意味する様々な言葉は、「仕える」と関連している。日々の礼拝生活を通して、神とこの世界に仕えることを体験的に学び、将来み心ならば、奉仕職としての職務を果たすための備えをする。祈祷書等のルブリックおよび下記の諸注意をよく理解し、十分な準備をして礼拝に臨むことが望まれる。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
7:00	各自	9:00- 聖餐式	朝の礼拝／祈り	朝の礼拝／祈り	朝の礼拝／祈り	朝の礼拝／祈り み言葉の礼拝(月1回)
12:05	各自	昼の祈り	嘆 願	昼の祈り	嘆 願	昼の祈り
17:30	各自	夕の礼拝／祈り	夕の礼拝／祈り	唱詠夕の礼拝	夕の礼拝／祈り	(教会実習のない日) 各 自

* 毎月第1土曜：「み言葉の礼拝」

* 毎月最終土曜：朝の祈りの週であっても朝の礼拝とし、「共同懺悔」を行う。

* 聖餐式 前 夕：聖餐式の前夕には、「夕の礼拝／祈り」に引き続き、「聖餐準備の式」を行う。

「聖餐準備の式」は、1. または2. と、3. 4. 5. のどれか一つを組み合わせるか、6. を単独で用いる。

I 神学館共同体礼拝の約束事

1. 週 日

- (1) 朝夕の礼拝と朝夕の祈りを隔週で用いる。
- (2) 朝の祈りの時、聖歌は第1日課の後で用いる。夕の祈りの時、「聖書（新約聖書）」および聖歌は朝の祈りに準ずる（第1日課、第2日課を朗読する）。
- (3) 詩編は座って唱える。詩編・賛歌などの「||」は少し間を開け、句読点は続けて唱える。詩編・賛歌は司式者側と日課朗読者側とで交互に唱える。司式者と会衆が交互に唱えてもよい。歌う場合には、句読点で少し伸ばし、「||」の間は息継ぎ程度にする。
- (4) 毎月1回、土曜日の朝は「み言葉の礼拝」を行う。これは主日・祝日に用いるものであるが、神学館ではこの日に用いる。
- (5) 聖職按手節、昇天前祈祷日は「守ってもよい」節・日である（祈祷書8-9頁）が、神学館の礼拝では該当する祈りを代祷の箇所で行う。（聖職按手節は聖職按手や聖職のみに限定されない、広く神の民全体の様々な職務のための節なので、ふさわしい祈りを諸祈祷、特祷その他より探す。また昇天前祈祷日には「産業と産物のため」の祈りを用いる。）
- (6) 小祝日の特祷を用いる場合は、「朝の礼拝／祈り」の代祷の箇所で行う。

2. 祝 日

- (1) 大祝日には火曜日を除き午前7時より聖餐式を行う。月曜日・休暇の日が大祝日に当たる場合は復活前月曜日および復活後月曜日を除き聖餐式を行わない。
- (2) 昼の祈りでは「祈りましょう」の後に、嘆願では104頁で、祝日の特祷を入れるようにする。
- (3) 夕の礼拝で祝日の聖語を用いる場合は「奉献唱、特別叙唱」（188頁以下）のルブリックに注意する。
- (4) 「前夕のある祝日」に注意する。

3. 一般的約束事

- (1) 現行祈祷書の作成精神に従い、ルブリックに精通し、いろいろな工夫、試みを行うようにする。
- (2) 祈祷書をよく読み、どこにどのような祈りがあるか知っておき、いかなる時にもふさわしい祈りを用いられるようにする。

- (3) ゴシック体の文章は、初めから唱える。
- (4) 祈祷書中の人称（兄弟、彼等）は、祈りの内容に応じてふさわしく読み替える。
- (5) 日課朗読者は、あらかじめ朗読する箇所を読んでおき、礼拝前には聖書の箇所を確認（しおりを挟む等）して、読み間違いのないように注意する。
- (6) 聖餐式のサーバーは前日に司式者に連絡を取り、祭服など必要事項を確認しておく。
- (7) 代祷は、必ず祈りを求める内容を具体的にアナウンスする（例：「今朝（夕）は、〇〇をおぼえて祈りましょう」）。代祷の「祈祷文」は「諸祈祷」（106頁以下）だけでなく、内容に応じて「特祷」その他祈祷書全体から選び、多少の字句の修正を行って用いる習慣をつける。
- (8) 世界諸教会の代祷は、まず聖公会名（管区名）等と言ってから教区名に移る。国内の場合は、教区名と言ってから教会名に移る。
- (9) 聖餐式中の代祷では、初めに（「執事」の呼びかけの後）代祷項目をあげる。または（ことに——）の部分に代祷項目（例：ことに〇〇聖公会△△教区）を具体的に入れる。
- (10) 聖餐式中の代祷で、（ことにわたしたちの主教——）の——の部分は、「ステパノ」と呼ぶ。
- (11) 礼拝中の個人の所作については、各自の判断に委ねられる。

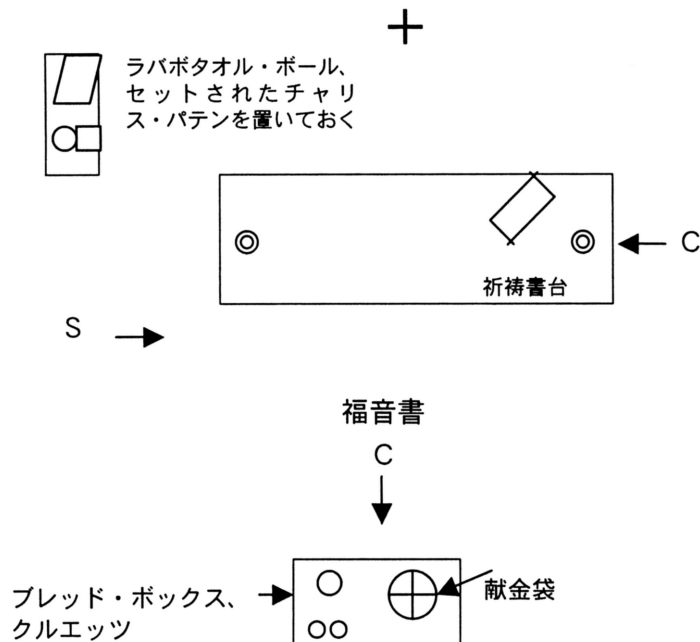
II 神学生個人の祈り

わたしたちは神学館共同体としての礼拝によって養われると同時に、神学生一人ひとりの個人の祈りによっても養われる。個人の祈りは共同体の営みを損なわない限り、尊重され、推奨される。そのためにチャペルを用いることができる。

III 神学館チャペルでの聖餐式の献げ方

◇参入よりみ言葉の部分まで

C : Celebrant（司式者） S : Server（侍者） L : Lector（聖書朗読者）



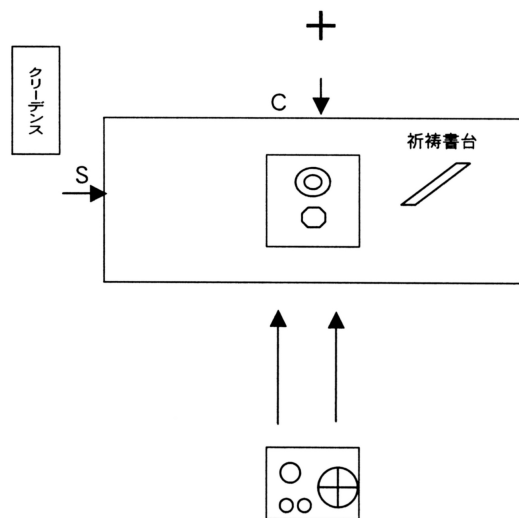
- (1) 入堂：聖卓の前で礼をし、左右に分かれる。
- (2) 旧約聖書朗読者は、会衆席より使徒書側へ行き、朗読する。
- (3) 「詩編」はSが先唱し、S側と司式者側とで交互に歌う。S側と会衆席とで交互に歌ってもよい。「栄光の唱」は用いない。詩編は黙想型の短いものを用いる。
- (4) 「詩編」の後、Sは使徒書を使徒書側で朗読する。

- (5) Cは、会衆席の中央で福音書を朗読する。
- (6) 代祷は会衆席より行う。
- (7) 平和の挨拶は全員で握手する。

◇聖餐の部分

【奉献準備】

- (1) Cが奉献唱を唱えた後、Sは聖歌をアナウンスする。
- (2) Sは、セットされたチャリス・パテンをCに渡す。
- (3) 代祷朗読者は、ブレッド・ボックス、クルエッツをSに渡す。
- (4) Sは、ブレッド・ボックス、クルエッツの盆をクリーデンス・テーブルに置く。
- (5) Sは、ブレッド・ボックスからパンを、またクルエッツをCへ。
- (6) 奉献聖歌最終節で、旧約聖書朗読者は信施（袋）をSに渡し、そのまま待つ。その時、代祷朗読者は旧約聖書朗読者と並んで立つ。奉献担当者は聖歌集を持参する。
- (7) Sは、信施をCに渡す。（または、そのまま捧げ持っている。）
- (8) 奉献の祈りの後、Cは洗手する。洗手の間に、全員聖卓を囲んで立つ。（祈祷書、聖歌集を持参）
- (9) Sは、Cの洗手の後、信施をクリーデンス・テーブルに置く。



【感謝聖別】

- (1) 全員、祭壇上に注目して式を続行する。
- (2) 感謝聖別文はⅠとⅡを隔週で用いる。Cはジェネフレクションはしない。また制定語の所作は自由。
- (3) Sは「サンクトゥス」「アニュス・デイ」を、Cは「記念唱」を先唱する。
- (4) 降臨節と大斎節には「近づきの祈り」も用いる。

【陪餐以降】

- (1) アブリューションの後、Sはセットされたチャリス・パテンをCより受け取り、クリーデンス・テーブル上に置く。
- (2) 派遣の唱和の後、全員聖卓に礼をし、自席に戻る。

※ 以上は、ウイリアムス神学館での約束事である。実習教会や出身教会（教区）にもそれぞれのリチュアルがあるので、それに従うこと。

《2024年度 教 授 構 成》

教授氏名	所 属	担 当 講 義 () 内は本年度休講
こうち たかし 高地 敬	京都教区主教・理事長	ギリシヤ語 I
くろだ ゆたか 黒田 裕	京都教区司祭・館長	英書講読、説教論、聖書研究、夏期実習、神学特講
あいはら たらう 相原 太郎	中部教区司祭	法憲法規特別講義
いわき あきら 岩城 聰	大阪教区司祭	教会史、(教理学 I)、牧会と宣教
かつむら ひろや 勝村 弘也	神戸松蔭女子学院大 名誉教授	旧約入門、(旧約神学)、旧約釈義
こしかわ ひろひで 越川 弘英	同志社大名誉教授	(礼拝学 I)
つじ あやの 辻 彩乃	川口基督教会	教会音楽
つだ けんじ 津田 謙治	京都大教授	(教理学特講)
つだ はなえ 津田 華枝	日基教団 西陣教会	(教理学特講：代講)
はまざき ままたか 濱崎 雅孝	関西学院大他、非常勤講師	教理学Ⅱ、神学基礎演習
はやし かずひろ 林 和広	神戸教区司祭	礼拝学Ⅱ、聖書研究、(聖公会論)、聖書内容試験 I
まえかわ ゆたか 前川 裕	関西学院大准教授	新約入門、ギリシヤ語 (Ⅱ) Ⅲ、聖書内容試験 I Ⅱ
みね しげきよし 嶺 重 淑	関西学院大教授	(新約釈義)、新約神学
みやた あきら 宮田 玲	同志社大他、非常勤講師	(ヘブライ語 I)
みわ ちしお 三輪 地塩	同志社大助教	日本キリスト教史

職員と協カスタッフ

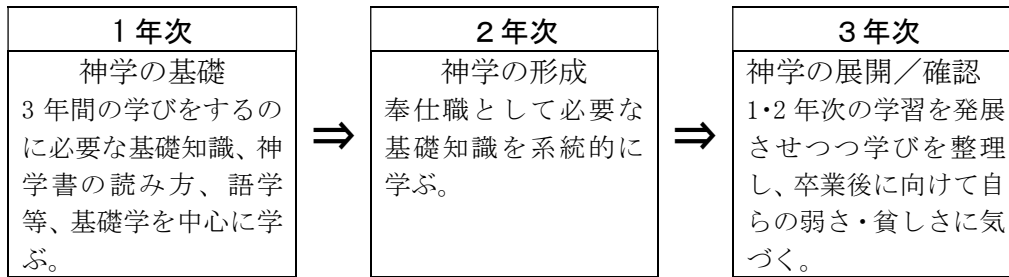
所 属	担 当 者
主 事 室	やまだ あつこ 山田 敦子 (室長・主事/京都聖ヨハネ教会) つだ はなえ 津田 華枝 (主事/日基教団 西陣教会) ねきた ゆうじ 脇田 祐治 (後援会会計/京都聖ヨハネ教会) まえだ のぶこ 前田 伸子 (協カスタッフ/大津聖マリア教会)
図 書 館	みやた あきら 宮田 玲 (同志社大学他、非常勤講師)
食 事 担 当	はね みえこ わだ のぶこ ふじもと みゆき 羽根 美恵子 和田 信子 藤本 美由紀

《ウィリアムス神学館の教育課程》

1. 授業構成

学年	旧約学	新約学	教理学	教会史	礼拝学	牧会・宣教	基礎学/語学
1	旧約入門	新約入門	神学基礎演習 ・レポート指導 ・哲学入門 ・キリスト教倫理	教会史			神学基礎演習 英書講読 ギリシャ語Ⅰ バイコン
2	旧約神学 旧約釈義 (隔年)	新約神学 新約釈義 (隔年)	教理学Ⅰ 教理学特講 聖公会論		礼拝学Ⅰ	臨床牧会訓練	ギリシャ語Ⅱ バイコン (ラテン語Ⅰ) (ヘブライ語Ⅰ)
3			教理学Ⅱ	日本キリスト 教史	礼拝学Ⅱ	説教論 牧会と宣 法憲法特 神学法規 講義	(ラテン語Ⅱ) (ヘブライ語Ⅱ) (ギリシャ語Ⅲ)
全					教会 音楽	教会実習 夏期実講 特別講義	霊性の 形成と変容

※ゴシック体は必修科目、(明朝体)は選択科目



- ①3年間の教育課程は、奉仕職として立てられるのに必要と思われる必修科目と、語学関係の選択科目からなっている。神学するための基礎的な力をつけ、できる限り自分の言葉で語ることが重視される。
- ②全学年共通科目は必修で3年間を通して履修する。ことに教会実習はテキスト学習だけでは身につけることの出来ないコンテキスト学習を、宣教の第一線で働く牧師の生き方を通して身につける。
- ③神学生の資質・能力に併せて、必要に応じて個人指導(チュートリアル)を行うことがある。
- ④神学の学びは教室や実習だけでなく、寮における共同生活、交わり、礼拝を通して形成されることを重視する。
- ⑤学年は3学期制で構成され、毎年4月1日より始まり、翌年の3月31日に終る。
 1学期：4月上旬より7月中旬まで、
 2学期：9月第1月曜日より12月中旬まで、
 3学期：1月上旬より3月中旬まで
- ⑥授業日数は、オリエンテーション、夏期実習(海外もしくは遠隔地研修含む)、リセス、学期末面接期間を除く、年間30週程度を目処とする。

2. 学期末試験について

- ①定期試験を行う場合は原則的に各学期末に行う。定期試験を受けなかった者または合格しなかった者については、事情によって再試験を行うことがある。
- ②試験方法は、筆記・レポート等により、担当教員が指定する。
- ③レポートの提出日時は厳守しなければならない。提出方法は担当教員が指定する。
- ④評価は以下の5段階で行い、D以上を合格とする。ただしA~Dについては「+」「-」で表示することもある。なお聖書内容試験に限り50点(E)以上で合格とする。

A (100~90点) B (89~80点) C (79~70点) D (69~60点) E (59点以下)

3. 神学生の区分

本館は全寮制であるので、学生の就学状態によって以下のように区分する。

- ①本科生：3年間在寮し、所定の全課程を履修する者。
- ②特別聴講生：3年間、寮には入らず在学し、所定の全課程を履修する者。
- ③教区派遣科目聴講生：1年以上在学し、当該教区と神学館の合意のもとに複数科目を履修する者。

4. 卒業認定について

本科生で、以下の条件を満たす者について卒業を認定し、卒業証書を授与する。

- ①所定の全課程に合格していること。
- ②3年間、寮生活をしていること。
- ③卒業小論文を提出していること。

5. 修了・修業認定について

以下の条件を満たす者について認定する。

- ①特別聴講生で、所定の全課程に合格した者は修了を認定し、修了証書を授与する。
- ②教区派遣科目聴講生で、当該教区との協議により指定された科目を合格した者は修業を認定し、修業証書を授与する。
- ③本科生、特別聴講生で、所定の課程のうち9割を合格した者は修業を認定し、修業証書を授与する。

6. 伝道師および信徒の奉仕職養成について

受講希望者および所属教区の意向を踏まえ、神学館との協議に基づいて柔軟にコースを編成する。

本館がかつて開講していた「伝道師養成コース」のカリキュラムを一例として以下に提示する。

①カリキュラム例

必修科目と選択必修科目からなる。選択必修科目は最低1科目を履修しなければならない。それ以外に本科生の科目を履修することも可能である。本科生と共通科目、このコース単独の科目がある。

必修科目	共通・通年	旧約入門、新約入門、礼拝学Ⅱ、教会音楽、聖書研究、教会実習、夏期実習
	単・前／後	前／礼拝学入門、後／牧会学概論と法憲法規
	単・1／2／3	1／教会問答、2／聖公会入門、3／奨励の意味と実践、
選択必修科目	共通・通年	文献講読、英書講読、教会史、教理学Ⅰ、ギリシャ語Ⅰ、聖書内容試験

②学期末試験について

- i) 定期試験は、各学期末に行う。定期試験を受けなかった者または合格しなかった者については、事情によって再試験を行うことがある。
- ii) 試験方法は、筆記・レポート等により、担当教員が指定する。
- iii) レポートの提出日時は厳守しなければならない。提出方法は担当教員が指定する。
- iv) 評価は以下の5段階で行い、D以上を合格とする。ただしA～Dについては「+」「-」で表示することもある。なお、聖書内容試験は50点(E)以上で合格とする。

A (100～90点) B (89～80点) C (79～70点) D (69～60点) E (59点以下)

③修了認定について

所定の課程に合格した者は、伝道師養成課程修了証書、信徒の奉仕職養成課程修了証書等の授与をもって修了を認定する。

《2024 年度講義科目》

★ 必修科目 ★	★伝道師および信徒の奉仕職養成課程★
1 年 次	カリキュラムの一例
神学基礎演習 [濱崎] 伝信選	旧 約 入 門
英 書 講 読 [黒田] 伝信選	新 約 入 門
旧 約 入 門 [勝村]	(前期) 礼 拝 学 入 門
新 約 入 門 [前川]	(後期) 牧会学概論と法憲法規
教 会 史 [岩城] 伝信選	礼 拝 学 II
ギリシャ語 I [高地]	(2学期) 聖 公 会 入 門
聖書内容試験 I [林/前川] 伝信選	(3学期) 奨励の意味と実践
2 年 次	★ 選 択 科 目 ★
教 理 学 I [岩城] 休講 伝信選	※ 選択科目中の語学は在学中どれかを努めて履修することが望ましい。
教 理 学 特 講 [津田] 休講	
聖 公 会 論 [林] 休講	2 年 次
礼 拝 学 I [越川] 休講	ヘブライ語 I [宮田] 休講
ギリシャ語 II [前川] 休講	ラテン語 I [] 休講
臨床牧会訓練 [愛隣館] 休講	3 年 次
聖書内容試験 II [前川] 休講	ギリシャ語 III [前川]
2・3年次合同（隔年）	ヘブライ語 II [] 休講
旧 約 神 学 [勝村] 休講	ラテン語 II [] 休講
旧 約 釈 義 [勝村]	★ 全学年・伝信養成課程共通科目 ★
新 約 釈 義 [嶺重] 休講	教 会 音 楽 [辻]
新 約 神 学 [嶺重]	霊性の形成と変容 [黒田・林]
3 年 次	実践神学特講 [黒田] 休講
教 理 学 II [濱崎]	教 会 実 習 [黒田]
礼 拝 学 II [林]	★ その他 ★
説 教 論 [黒田]	集中講義（ハラスメント防止関係）
牧 会 と 宣 教 [岩城]	神学館講演会
日本キリスト教史 [三輪]	特別研修
法憲法規特講 [相原]	
神 学 特 講 [黒田]	
卒 業 小 論 文	

《2024 年度学年別講義内容》

《 1 年 》

神学基礎演習 (濱崎雅孝)

I. 講義内容

- ① (レポート指導) 神学校での学びにおいて必須となるレポート作成法を習得する。
- ② (哲学入門) キリスト教思想と関わりの深い西洋哲学の基礎知識を習得する。
- ③ (キリスト教倫理) 現代の倫理的諸問題についてキリスト教の立場から考察する。

II. 講義形式・成績評価

授業において文章作成のヒントになる論文などを読み、受講生はそれについてのレポートを作成する。講師が毎回レポートを添削し、受講生は必要に応じて書き直しをする。

成績は、レポートの内容によって評価する。

III. テキスト・参考文献

【教科書】

- * 苫野一徳『はじめての哲学的思考』(2017、ちくまプリマー新書)
- * 西研『しあわせの哲学』(2021、NHK 出版)
- * 若松英輔・山本芳久『キリスト教講義』(2023、文春学藝ライブラリー)

【参考書】

- * 木下是雄『レポートの組み立て方』(1994、ちくま学芸文庫)
- * 西研・森下育彦『「考える」ための小論文』(1997、ちくま新書)
- * 西研『哲学の練習問題』(2012、河出文庫)
- * 若松英輔『考える教室』(2019、NHK 出版)
- * 苫野一徳『愛』(2019、講談社現代新書)

英書講読 (黒田 裕)

I. 講義内容

神学に関する邦訳書は決して十分とは言えないが、とりわけ聖公会関係の資料となるとその数は格段に少なくなると言わざるをえない。そのため少しでも英書に慣れておくことは今後の学びにとって有益となるであろう。はじめにイングランド宗教改革からエリザベスの宗教解決、聖公会神学(ヴィア・メディア)の登場および信徒の奉仕職の歴史を概観し、それが終わり次第、聖公会の重要な資料を原文で味読する。

II. 講義形式・評価方法

授業は、講義および発表形式による。評価は発表の内容および授業への参加度によって行なう。

III. テキスト・参考文献

【教科書】

- * J. R. H. Moorman, *A History of The Church in England*, 3rd ed., N.Y., Morehouse Publishing,

1980(1963)

※とくに XI-XIII。なお、本書には邦訳がある。J.R.H.ムアマン『イギリス教会史』八代崇他訳、聖公会出版、1991年

* Edited by The Revd Canon John Kafwanka and the Revd Canon Mark Oxbrow, *Intentional Discipleship and Disciple-Making: An Anglican Guide for Christian Life and Formation*, The Anglican Consultative Council London 2016.

なお、本書はインターネットからダウンロードすることもできる。

<https://www.anglicancommunion.org/media/220191/intentional-discipleship-and-disciple-making.pdf>

【参考文献】

*阿川イチロヲ『新装版 英文法のトリセツ じっくり基礎編』アルク、2019年

*関正生『真・英文法大全』KADOKAWA、2022年

*渡部昇一『英文法を知ってますか』文藝春秋、2003年

*マーク・チャップマン『世界聖公会物語』岩城聰訳、かんよう出版、2013年

*八代崇『新カンタベリー物語』（聖公会出版）-入手できない場合は館長に申し出る

その他資料は授業の中で提示もしくは配布する

旧約入門（勝村 弘也）

I. 講義内容

1 学期：旧約の舞台となった地域の風土と歴史を学びつつ、旧約の全体の構成を概観する。続いてトーラー（律法）について、その成立の歴史を概観しながら、いくつかの箇所についてその内容を解説する。聖歌の源泉となっている詩篇についても少し触れる。

2 学期：紀元前8世紀中頃以降に登場した預言者について、当時の世界状況とからめて論じる。アモス書、イザヤ書から代表的なテキストを取り上げ読み解く。

3 学期：詩篇の研究の歴史を概観しながら、いくつかの詩篇を読み解いてゆく。箴言についても概観する。

II. 成績評価

数回のテストとレポートを総合して評価する。

III. テキスト、参考文献

【教科書】

*勝村弘也著『旧約聖書に学ぶ』日本キリスト教団出版局、1993年

【参考文献】

*勝村弘也著『今さら聞けない!? キリスト教—旧約聖書編』教文館、2020年

*山我哲雄著『聖書時代史 旧約編』岩波現代文庫、2003年

*その他、授業中に指示する。

新約入門（前川 裕）

I. 講義内容

新約聖書に含まれる各文書の成立背景、構成、思想的特色の概要（緒論）を学びつつ、新約聖書

全体を学問的に概観する。おおむね新約聖書の配列順に学ぶ。毎回の予習として、指定された聖書の当該文書を読んでおくこと。

II. 成績評価

各学期末の試験成績および平常点（受講への取り組み姿勢など）を総合して評価する。

III. テキスト、参考文献

【教科書】

授業においてテキストを配布する。

【その他の参考文献】

（いずれも高価なため購入する必要はない；図書室での所在は確認しておくこと）

*原口尚彰『新約聖書概説』教文館、2004年

*荒井献他『総説 新約聖書』日本基督教団出版局、1981年

*大貫隆・山内眞監修『新版 総説 新約聖書』日本基督教団出版局、2003年

*田川建三『書物としての新約聖書』勁草書房、1997年

教 会 史（岩城 聰）

I. 講義内容

古代から現代までの2000年に及ぶキリスト教会の歩みを概観する。東方正教会、東方諸教会も視野に入れる。

II. 成績評価

各学期末に行う筆記試験をベースに評価する。学期途中のレポート、および授業への参加度も勘案する。

III. テキスト・参考文献

*テキストは担当教授作成のプリント（早期に書籍として出版される予定）

*参考文献 菊地榮三・菊地伸二著『キリスト教史』教文館、2005年

岩城聰著『今さら聞けない！？キリスト教—聖公会の歴史と教理編』教文館、2021年

デイヴィッド・L・ホームズ著・岩城聰訳『アメリカ聖公会小史』かんよう出版 2018年

マーク・チャップマン著・岩城聰監訳『聖公会物語』かんよう出版、2013年

荒井献・出村彰著『総説キリスト教史1～3』日本基督教団出版局、2007年

宗教の世界史10『キリスト教の歴史3—東方正教会・東方諸教会』山川出版社、2013年

以上の他、授業中に指示するもの

ギリシャ語 I（高地 敬）

I. 講義内容

新約聖書を原典で読むために必要な文法を習得する。

II. 成績評価

各学期末のテストと授業への取り組み（姿勢）による。

III. テキスト

* J.G. メイチェン著『新約聖書ギリシャ語原典入門』田辺滋訳、新生宣教団、2000年

聖書内容試験Ⅰ (林 和広/前川 裕)

I. 目 標

旧約聖書と新約聖書の各書を熟読し、全体の概要を把握すること。

II. 成績評価

試験の平均点と「聖書を読む」姿勢の総合評価を含めて、平均点 50 点以上を合格とする。

III. テキスト

* 『聖書協会共同訳 聖書』(日本聖書協会)を用いる。

《 2 年 》

旧約神学 -2・3年共通 (勝村 弘也)

本年度休講(隔年開講)

旧約釈義 -2・3年共通 (勝村 弘也)

次頁参照

新約釈義 -2・3年共通 (嶺重 淑)

本年度休講(隔年開講)

新約神学 -2・3年共通 (嶺重 淑)

次頁参照

教理学Ⅰ (岩城 聰)

本年度休講

教理学特講(1学期) (津田華枝)

本年度休講

聖公会論 (林 和広)

本年度休講

礼拝学Ⅰ (越川弘英)

本年度休講

ギリシャ語Ⅱ (前川 裕)

本年度休講

本年度休講

《 3 年 》

旧約釈義 -2・3年共通 (勝村 弘也)

I 講義内容

- 1 学期：旧約原典、古代訳、近現代語訳の特徴について概説する。釈義の方法について、創世記1章、18-19章などを例にして学んでゆく。
- 2 学期：創世記、出エジプト記、詩篇、預言書からいくつかの個所を選んで、演習形式で釈義の実際を学ぶ。
- 3 学期：知恵文学を中心として、演習形式で釈義の実際を学ぶ。

II 講義形式 成績評価

講義と受講者による研究発表を併用する。授業への参加度を重視して成績を評価するが、学期末にはレポートの提出を必要とする。

III 参考文献

- * 勝村弘也著『今さら聞けない！？キリスト教 旧約聖書編』教文館、2020年
- * 勝村弘也著『VTJ 旧約聖書注解 サムエル記上 1～15章』日本キリスト教団出版局、2022年
- * B.S.チャイルズ著、近藤十郎訳『出エジプト記 下』日本基督教団出版局、1994年
- * 『新共同訳旧約聖書注解 II』日本基督教団出版局、1994年

旧約神学 -2・3年共通 (勝村 弘也)

本年度休講 (隔年開講)

新約釈義 -2・3年共通 (嶺重 淑)

本年度休講 (隔年開講)

新約神学 -2・3年共通 (嶺重 淑)

I. 講義内容

新約聖書神学の基本的な内容について1年を通して学んでいく。1、2学期はテキスト(下記参照)を読み進めながら主要な主題について概観し、3学期はその他の主題を扱う予定。

II. 成績評価

各学期末試験、レポート、発表等によって総合的に評価する。

III. テキスト

- * 原口尚彰著『新約聖書神学概説』、教文館、2009年。

教理学 II (濱崎 雅孝)

I. 講義内容

- ① 宗教改革以後の神学がキリスト教界に与えた影響を理解する。
- ② 現代神学の動向を網羅的に把握する。
- ③ 現代人の信仰を神学的に理解、説明する方法を学ぶ。

II. 講義形式・成績評価

テキストの内容を講師が説明し、受講生は指定された文献を読んで要約文を作成する。
成績は、要約文と期末レポートの内容によって評価する。

III. テキスト・参考文献

【教科書】

*バーガー『現代人はキリスト教を信じられるか』（2009、教文館）

【参考書】

*マクグラス『キリスト教神学入門』（2002、教文館）

*マクグラス『歴史のイエスと信仰のキリスト』（2011、キリスト新聞社）

*ツァールント『20世紀のプロテスタント神学』（1978、新教出版社）

*バルト『福音主義神学入門』（1968、新教出版社）

*バルト『教義学要綱』（1993、新教出版社）

*ブルトマン『イエス』（1963、未来社）

*ブルトマン『新約聖書と神話論』（1990、新教出版社）

*ティリッヒ『信仰の本質と動態』（2000、新教出版社）

*ティリッヒ『近代プロテスタント思想史』（2005、新教出版社）

礼 拝 学 II (林 和広)

I. 講義内容

日本聖公会現行祈祷書の聖奠及び諸式について学ぶ。基本的に講義形式で行う。

II 評価方法

各自の授業参加度、学期末レポートで評価する。

III テキスト・参考文献

*1990年日本聖公会祈祷書

【教科書】

*必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献】

(必ずしも購入する必要はない。適宜、コピー配布する。洋書についても適宜、コピー又は抄訳したものを配布する。)

*森 紀旦編、「聖公会の礼拝と祈祷書」、聖公会出版、1989年

*改訂増補版「日本聖公会祈祷書解説」、日本聖公会管区事務所、1994年

*P.Bradshaw.(eds), *A Companion of Common Worship, Vol 1.2001, Vol. 2, SPCK, 2006.*

*C.BuChanan(ed.), *Modern Anglican Liturgies, 1958-1968*, Oxford University Press,1968.

*C.BuChanan(ed.), *Further Anglican Liturgies, 1968-1975*, Grove Books Ltd,1975.

*C.BuChanan(ed.), *Latest Anglican Liturgies, 1976-1984*, SPCK,1985.

*C.BuChanan,(ed.) *Anglican Eucharistic Liturgies, 1985-2010*, Canterbury Press,2001.

* J. Day, J. and B. G. Taylor (eds), *The Study of Liturgy and Worship*, An Alcuin guide, SPCK, 2013.

* C. Jones (eds), *The Study of Liturgy*, Revised Edition, SPCK, 1992.

* M. J. Hatchete, *Commerntary on the American Prayer Book*, Harper One, 1995.

* C. Heffling and C. Shattuck. (eds), *The Oxford Guide to the Book of Common Prayer*, Oxford University Press, 2006.

* B. Spinks and K. Steavenson (eds), *Identity of Anglian Worship*, Mowbray, 1991.

—その他は適宜紹介する。

説 教 論 (黒田 裕)

I. 講義内容

説教作成の方法を、理論的かつ実践的に学んでゆく。年間の前半は、説教の歴史、説教論をめぐる諸問題について考えながら説教作成の基本的な方法を学ぶ。前半で学んだことを踏まえ活かしながら、後半は説教演習を行っていく。

II. 講義形式・評価方法

授業は、テーマによって学生の発表形式もしくは講義による。評価は授業への取り組みによって行い、とくに年度の後半では、演習での発表の内容によって行なう。

III. テキスト・参考文献

* 黒田裕『今さら聞けない!? キリスト教—聖書・聖書朗読・説教編』教文館、2018年

* D. ボンヘッフアー『説教と牧会』森野善右衛門訳、新教出版社、1975年

* 関田寛雄『聖書解釈と説教』日本基督教団出版局、1980年

* 関田寛雄『「断片」の神学—実践神学の諸問題』日本基督教団出版局、2005年

* エドワーズ Jr, O. C. 「聖公会の説教とは？」(浜屋憲夫訳)、ウィリアムス神学館紀要『ヴィア・メディア』、2 (1998年)

—その他は授業中に提示する。

—以下は参考まで

* Yngv Brilioth, trans. Karl E. Mattson, *A Brief History of Preaching*, Philadelphia: Fortress, 1965.

* O. C. Edwards Jr., *A History of Preaching*, Abingdon Press, 2004.

* R. H. Fuller, *What is Liturgical Preaching? : Studies in Worship and Ministry*, London, SCM Press, 1957.

牧 会 と 宣 教 (岩城 聡)

I. 授業内容

1. 牧会諸式

① 病人訪問の式

② 葬送諸式

③ 聖婚式・結婚式

2. 現代の宣教論

① 宣教論の歴史の変遷とその問題点

② 聖公会における宣教の五指標

③ 日本聖公会の宣教の歴史と問題点

④社会宣教と福音伝道

⑤礼拝と宣教

3. 後期は、さまざまな諸課題について学び、フィールドワークもする。全部はできないかも知れないが、時間の工夫をする。

①被差別部落に関連するもの

講義と見学(水平社博物館など)

②在日韓国・朝鮮人に関連するもの

講義とフィールドワーク(東九条、聖公会生野センター、耳塚、ウトロ地区、雨森芳洲記念館など)

③子どもたちの現状に関するもの

児童養護施設等の訪問と講義

④沖縄の基地問題に関するもの

講義(フィールドワークは不可能だが、沖縄週間・沖縄の旅の紹介はできる)

⑤その他、時宜にかなった課題があれば取り上げる。

II. 参考図書

*越川弘英編著『宣教ってなんだ?』(2012、キリスト新聞社)

*レスリー・ニュービギン『宣教学入門』(2010、日本キリスト教団出版局)

*塚田理 『日本聖公会の形成と課題』(1978、聖公会出版)

*神田健次他著『総説・実践神学』(1989、日本基督教団出版局)

*『アンニョンハセヨ日韓在日』(プリントまたはファイルで)

*塚田理 『初期日本聖公会の形成と今井寿道』(1992、聖公会出版)

*クリストファー・J・H・ライト『神の宣教』第1巻～第3巻(2012、東京ミッション研究所)

*WCC 世界宣教・伝道委員会『現代の宣教と伝道』(1991、新教出版社)

*松田和憲『宣教の神学—パラダイム転換を目指して』(2010、関東学院大学出版会)

*デイヴィッド・ボッシュ『宣教のパラダイム転換』上・下(1999、新教出版社)

*ホーケンダイク『明日の社会と明日の教会』(1966、新教出版社)

**Mission in the 21st Century*, Edited by Andrew Walls and Cathy Ross, 2008, Darton, Longman and Todd

*J・G・デーヴィス『現代における宣教と礼拝』(岸本羊一訳、1968、日本基督教団出版局)

日本キリスト教史 (三輪地塩)

I. 講義内容

日本キリスト教史(キリシタン史から近現代キリスト教史まで)を1年で概観する。

講義形式だが履修者との相談の上、発表形式で行う場合もある。

1学期はキリシタン史(織豊期～幕末明治維新期)、2～3学期は日本プロテスタント史を予定。

II. 評価方法

授業の貢献度(質疑応答・講義への積極的な参加・発表がある場合は発表内容の完成度)、

学期末レポート(3回)によって評価する。

Ⅲ. テキスト・参考文献

①テキスト

- *土井健司, 久松英二, 村上みか, 芦名定道, 落合建仁『一冊でわかるキリスト教史』、日本キリスト教団出版局、2018年
- *鈴木範久『日本キリスト教史』教文館、2017年
- *嶺重淑『キリスト教入門—歴史・人物・文学』日本基督教団出版局、2011年

②参考文献

- *同志社大学人文科学研究部編『日本プロテスタント諸教派史の研究』教文館、1997年
- *五野井隆史『日本キリスト教史』吉川弘文館、1990年
- *浅見雅一『概説 キリシタン史』、慶応義塾大学出版会、2016年
- *キリスト教史学会編『宣教師と日本人』教文館、2012年
- *キリスト教史学会編『戦時下のキリスト教』教文館、2015年
- *中村 敏『日本キリスト教宣教史』いのちのことば社、2009年
- *中村 敏『日本プロテスタント神学校史』いのちのことば社、2013年
- ※その他、授業内で随時紹介する。

◇状況に応じ、Zoomを使用したオンライン授業の場合があります。第1回目の授業時に連絡先や授業方法などの打ち合わせを行いましょ。

神 学 特 講 (3 学期) (黒田 裕)

聖職試験においては牧会と宣教の実践を踏まえた良問が毎回出題されているが、近年は論述が十分に展開されていない解答が少なくないと思われる。この講座では過去の問題を素材としながら、そこで問われている課題を主体的に受け止め、各自の召命感と照らし合わせながら、それを応答的に論述できるようになることを目指す。ゼミ形式で行い、授業の参加度と発表の内容によって評価する。

卒 業 小 論 文

I. 小論文作成のねらい

神学館の学びを通して得たものを集成し、卒業後の自らの宣教・伝道・牧会活動の指針となりうる課題、あるいは卒業後継続して学ぶ研究テーマの端緒となる課題について、指導教授の指導のもとで作成する。

II. 小論文提出資格

本科生は提出しなければならない。特別聴講生および教区派遣科目聴講生は、希望により提出することができる。

III. 小論文作成要項

1. 内容・字数

- *内容はねらいに即したもの。
- *字数：12,000字以上20,000字程度

2. テーマの選定等

- * 2年次、年度末面接時に、館長に希望課題を報告する。
- * 3年次、5月中旬（連休明け頃）までに、課題を決定し、指導教授を決める。
- 3. **中間発表**（レジュメを学生と教員分、用意すること。）
 - *日 時：第1回 2024年 6月 5日（水） 15:15～
第2回 2024年 10月 23日（水） 15:15～
 - *場 所：ニコルス館食堂
 - *内 容：小論文のテーマ、ねらい、概要（目次）等を発表する。
- 4. **最終発表**（内容を1,600字程度のレジュメにまとめ、学生と教員に配布すること。）
 - *日 時：2025年 3月 5日（水） 15:15～
 - *場 所：ニコルス館食堂
 - *内 容：小論文の内容について発表する。
- 5. **小論文の提出**
 - *提出期限：2025年 3月 4日（火）正午まで（期限厳守）
 - *提 出 先：館長まで
 - *提 出 物：小論文（プリントアウトしたもの） 1部
小論文概要（1,600字まで） 1部
 - *提出にあたって：小論文概要はヴィア・メディアに掲載するため、ワードファイルで館長まで
eメールで送付すること。また小論文本体もプリントアウトしたものとは別に、eメールで送付すること。（kuroda@bp-williams-seminary.org）
- 6. **小論文作成にあたっての注意事項**
 - *別刷りの「卒業小論文作成の手引」をよく読み、それに準拠すること。
 - *その他、論文作成や脚注の作り方（作法）について分からない場合は、担当教員に聞くか、例えば次のような書籍を入手し学ぶこと。古郡廷治『論文・レポートのまとめ方』筑摩書房、1997年

《選 択 科 目》

ヘ ブ ラ イ 語 I (宮田 玲)

本年度休講

ヘ ブ ラ イ 語 II ()

本年度休講

ギリシャ語 III (前川 裕)

I. 講義内容

新約聖書原典を講読する。テキストについては、以下の2書のいずれでも良いが、UBS第5版の辞書つきものを推奨する。他の版については事前に教員に相談すること。

III. テキスト・参考文献

* *The Greek New Testament*, 5th edition, United Bible Societies, 2014

* *Novum Testamentum Graece*, Nestle-Aland, 28th, 2012

ラテン語Ⅰ ()

本年度休講

ラテン語Ⅱ ()

本年度休講

《全 学 年 共 通》

教会音楽 (辻 彩乃)

I. 講義内容

毎日の礼拝で用いる聖歌やチャントを、伴奏がなくても正しく歌えるように練習します。それと並行して読譜のための基礎的楽典やソルフェージュ、旧約聖書の時代から現代までのキリスト教音楽史、聖歌の発展史、聖歌集に関する基礎知識などを学んでいきます。また、礼拝における聖歌の選び方を実践的に学びます。

II. 成績評価

学期末の課題あるいは試験、授業への参加度で評価します。

III. テキスト・参考文献

- * 『日本聖公会聖歌集』 日本聖公会管区事務所、2006年（第2版が望ましい）
- * 宮崎光『聖公会の聖歌—いのちを奏でよ』 聖公会出版、2008年

霊性の形成と変容 (黒田 裕)

このクラスは歴史的に形成されてきた霊的实践に関する先達の知恵に学び、それに基づいた祈りと黙想、分かち合いを通して、神との関係において自己の信仰、自分自身や自己と他者との関係、自己と社会・世界を省察し、観想的な奉仕者として養われていくことを目標とする。そのことはまた、日々の礼拝と学問的な学び、生活がより深い次元で総合されていくこと、ということでもある。基本的には神学生が主体となりつつ、教員や他の参加者と協働的につくりあげていく時間としたい。なお、今年度4-5月はJ.イェー教授の特別講義があるため、6月から開始する。

○基本テキスト

- * Christine Valters Paintner and Lucy Wynkoop, *Lectio Divina: Contemplative Awakening and Awareness*, New York: Paulist Press, 2008. 抄訳を用意しているのでそれを参照してほしい。クラスでは適宜学生がリードする黙想の時を持つが、原則的にこの本で紹介されている方法を用いることになるので普段から親しんでおくことを推奨したい。

○今年度参照文献

- * ダニエル J.シーゲル、ティナ・ペイン・ブライソン著、桐谷知未訳、『生き抜く力をはぐくむ愛着の子育て』、大和書房、2022年（原著 Daniel J. Siegel and Tina Payne Bryson, *The Power of Showing Up*, New York: Ballantine Books New York, 2020）本書は育児に関する書籍だが、自己

の半生を見つめ、一貫したストーリーを語れるようになることが推奨されている点でキリスト教の観想的伝統と重なり私たちの感受性を養う上で有益と考えられるためクラスで用いていきたい。

*George A. Lane, S.J., *Christian Spirituality: A Historical Sketch*, Chicago: Loyola Press, 1984. 本書はベネディクト会、シトー会、イエズス会といった歴史的・修道的霊性の系譜が当時の文脈を踏まえながら簡潔に学べるとともに、各時代に特徴的な霊性について批評的に分析し、それを現代にどう活かせるかという視点で叙述されている良書である。聖公会の霊性（祈祷書の霊性）の背後にどのような霊的運動のダイナミズムがあったのかを知るために有用な資料ともいえる。教員を中心に内容を紹介しそれを分かち合うが、状況がゆるせば学生に担当してもらったこともある。

ヴァージニア神学校 ジョン・イエー教授による特別講義 (黒田 裕)

京都教区とも歴史的に関係が深く、過去の海外研修でも訪問したヴァージニア神学校の教授、ジョン・イエー先生による新約学の特別講義。内容は別紙案内を参照されたい。4・5月に通訳つきで行なうこととする。

教会実習 (黒田 裕)

指導司祭の指導のもとに、派遣された教会における「神の宣教」(ミッシオ・デイ)に参加し、学び、教育され、将来の叙任された奉仕職(聖職)の働きに備える。神学生に具体的に期待されることは、「①奉仕職とは何か、どのような生き方なのかを、指導司祭の背中(生き方、在りよう)を見て感じること」「②信徒、求道者の方々との関わり方や関係のあり方を、指導司祭の背中(生き方、在りよう)を見て感じること」「③この世に仕えるものとしての教会のありようを、体験的に学ぶこと」である。神学生が実習教会の信徒の方から万が一「先生」と呼ばれても、そのことにむしろ違和感をもち、自らが「仕える者」として召され、遣わされていることを体験的に学ぶことが期待されている。神学生には「教会実習ノート」が配布され、それに必要事項を毎週書き込み、提出する。1年生は土曜日の午後から日曜日の午後にかけて教会実習を行う。2・3年生は日曜日の朝から午後にかけて教会実習を行う。

夏期実習 (黒田 裕)

宣教の現場の中で、人々との出会いを通して自らの生き方、信仰、自分自身に気づき、テキストからの学びとコンテキスト(文脈・状況)からの学びの統合を試みる。3年に1回、海外もしくは遠隔地研修を行なう。

《伝道師および信徒の奉仕職養成について》

*受講希望者および所属教区の意向を踏まえ、神学館との協議に基づいて柔軟にコースを編成する。

＜今年度休講の科目＞

【1年次】

- 【2 年 次】 全科目
- 【2・3年次】 旧約神学、新約釈義
- 【3 年 次】
- 【選 択 科 目】 ラテン語Ⅰ、ラテン語Ⅱ
- 【伝・信奉養】 ※受講希望がある場合に適宜開講する。

《図書館の利用の仕方》

今年度も引き続き、図書の整理を精力的に行う。分かりにくいことは司書及び主事に尋ねること。貸し出し方法の変更があるかもしれないが、その都度指示に従うこと。

◎貸し出しの方法（原則的な事柄）

- (1) 机上の「貸し出し記入表」に、分類コード・番号、書名、年月日、氏名を記入する。
- (2) 貸し出し期間は、借りた日より2週間。期日厳守。
- (3) 聖書、事典、辞典、注解書は「禁帯出」である。教室で使用の場合、またコピーする場合、終わりに次第直ちに「元あった書棚の所」に「自分で」戻す。
- (4) 図書室での勉強、読書、調べものは、閲覧室の代わりに授業のないときの「教室」を用いる。
- (5) 借りたい本が書架にない場合は、本は「貸し出し記入表」を見、借りている人を探す。
- (6) 学期末にはすべて返却する。休暇中に貸し出しを希望する場合には、館長の許可を得ること。
- (7) 返却は、「貸し出し記入表」に返却月日を記入の上、「元あった書棚の所」に「自分で」戻す。
その際、ラベルの1段目の大文字アルファベット、2段目の数字が書架を示しているので参考にすること。
- (8) 図書室、教室はもちろん、第2ビル内は禁煙。

A
1
1 2 3 4

《生活上の注意》

*以下は、ウィリアムス神学館で共同生活を営むための最低限のルールである。神学生諸君の大人としての常識と良識が期待されている。

- (1) 浴槽は、原則として月、水、金に使用する。シャワーは随時使用することができる。
- (2) 毎朝朝食前に、食事当番以外は公の場（玄関、食堂、コモン・ルーム、階段、廊下、トイレ、構内）の掃除をすること。（掃き掃除、ふき掃除）。教室を常にきれいにすることを心がけること。
- (3) 主日、月曜日、国民の祝日（2月11日を除く）を除く毎日の朝食と土曜日の昼食（弁当）は、当番が用意する。
- (4) 1年生のみ、土曜日の夕食と主日の昼食は、実習教会で用意していただく。2・3年生は、主日の昼食を実習教会で用意していただく。
- (5) 門限は午後11時とする。教会実習で門限に遅れる場合には、指導司祭にその旨を神学館まで連絡していただくこと。
- (6) 公の場には、原則として私物を置いたままにしない。いつも整理整頓に心を配ること。
- (7) 水道光熱に関して、無駄な使用は厳に慎むこと。電気はまめに消すこと。神学館運営経費の多くが、全国の教会や信徒の皆さんから献げられた献金で成り立っていることを覚えて欲しい。
- (8) 教授が休講その他授業に関する変更を指示した時は、館長・主事及び聴講生にその旨を伝え、ニコルス館ホワイト・ボードの休講欄に記入する。またそれに伴う昼食の要不要を確認し、食事係に連絡する。
- (9) 学生会は、自主的運営を原則とするが、決定事項は必ず館長・主事にも伝えること。また必要ある事柄（公のもの、対外的なもの）は、予め主事または館長に相談すること。

- (10) 学生の役割分担の中に、保健衛生と営繕係を1名決めること。保健衛生係は薬箱を管理し、学生の健康状態に配慮する。営繕係は寮内営繕に関する学生側の窓口となる。
- (11) お客様が来られた時は、応対・接待を大切にすること。
- (12) 土地建物は教区のものであり、管理は教務所が行っている。関係を大切に。教区と交渉する必要があるときは、必ず館長・主事を通すこと。
- (13) 健康管理は自分で。
- (14) 火の取扱いには特に注意すること。冬期の灯油の取扱い、台所の火の始末には細心の注意を払うこと。
- (15) ニコルス館（寮）、教区センター側の4室および建物内、第2ビル（教室・図書室）は全館禁煙である。
- (16) 寮の全室にLANが設備されている。使用は自由であるが有料サイトには絶対にアクセスしないこと。また個人用パソコンのウィルス対策ソフト等は必ず各自の責任でインストールすること。
- (17) コモン・ルームに設置されているパソコンは、神学生がレジュメなどの提出物を印刷する際に使用できる。
- (18) コピー機の使用に関して、授業用のものは無料であるが、私的コピーはコピー室備え付けのノートに記入すること（各学期末に清算）。コピー機の使用方法については、上級生に聞くこと。印刷機の使用については主事または館長の許可を取ること。
- (19) 神学生（聖職候補生）として神学館に学んでいるということは、一般の学生生活とは違う。自分の言動、服装、その他に神学生（聖職候補生）としての自覚と責任を持つこと。「自分の思いのままに」ではなく「キリストの十字架を背負う」とはどういうことかを、神学・礼拝・生活を通して真剣に考え続けて欲しい。
- (20) 学期中に外泊をする場合は、必ず所定の書式による「外泊届」を主事または館長に提出し、許可を得ること。
- (21) 寮の各部屋の鍵は各自で管理し、学年末には館長または主事に返却すること。
- (22) 出寮日以後、やむを得ない事情があつて寮に滞在する場合、主事に滞在願いを提出し、館長の承認を得ること。なお、1泊500円を神学館に納める。（卒業または修了・修業礼拝後、任地に赴くまでの3月中の滞在を除く。）
- (23) 寮室は原則として、毎年移動する。
- (24) その他、常に館長・主事と連絡を密にすること。又、集団生活での約束事を主体的に守り、学生相互のコミュニケーションを大切にして、明るい寮生活ができるように心を配ること。

《聴講制度》

1. 聴講制度について

2007 年度より科目聴講の門戸を今まで以上に大きく開き、下記の条件のもとで、開講することにした。より多くの信徒の方が、この聴講制度を利用して教会の教えや神学についてより深く学び、それぞれの教会で自らの賜物を用いて奉仕の業に励み、また信仰を深められることを期待する。

2. 聴講の条件等

1. 聖公会信徒もしくは館長が特別に許可した方。
2. 所定の聴講料を納付した方。
3. 申し出があれば、学期末のテストを受けるか、レポートを提出し、所定の成績を修めた方には、科目履修証明書を発行する。
4. 定員によっては開講できないこともある。

3. 開講科目（授業内容、担当教員は学年別講義内容を参照のこと）※募集定員：各5名

*英書講読 *旧約入門 *新約入門 *旧約神学 *新約釈義 *教会史 *日本キリスト教史
*教理学I *教理学II *聖公会論 *礼拝学I *礼拝学II *教会音楽 *ギリシャ語I
*ギリシャ語II *ヘブライ語I
*各学年の本科生が不在の場合、当該学年配当科目は不開講となる可能性がある

4. 聴講料

* 1科目 4,500円（年額）

5. 聴講手続き

1. 聴講申込書に必要事項を記入の上、神学館宛 E メールもしくはファクスまたは郵送で申込みこと。
2. 聴講料は最初の授業時に納付すること。
3. 申込締切 4月6日（土）必着
*できるだけ早めをお願いします。メ切が迫っている時は電話でも結構です。後日申込書をご持参下さい。

6. 授業日程（試験週を含む）

1 学期 4月9日（火）～ 6月22日（土）
2 学期 9月4日（火）～ 11月22日（金）
3 学期 1月8日（水）～ 2月15日（土）

7. その他

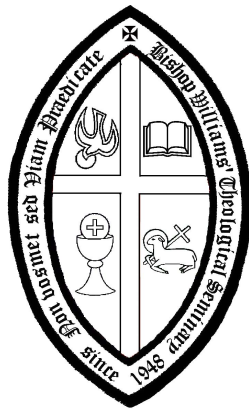
*神学館の図書館を利用できます。
*昼食が必要な方はお申し出下さい（実費）。

《今さら聞けない!? キリスト教講座》

教会生活はそれなりに長いのだけれど、こんなこと今さら聞けない、などと疑問に思っておられることに答える、2014年度からはじまったキリスト教講座です。今年は、「礼拝と宣教」編です。

「礼拝と宣教」編

- ・担当：越川 弘英 教授
- ・対象：日本聖公会信徒及び教役者
- ・場所：ウイリアムス神学館 京都教区センター第2ビル 大教室
- ・開催日時：年10回 土曜日、午後2時～午後3時30分
4/27, 5/25, 6/15, 7/13, 9/14, 10/19, 11/16, 1/18, 2/15, 3/15
- ・費用：(a) 教室受講コース： 8,000円 (1年間、10回講義)
(b) 教室受講＋ネット受講コース：10,000円 (ネット受講のみの方も、このコースです)



2024 年度ウイリアムス神学館要覧

2024 年 4 月 1 日発行

日本聖公会京都教区 ウイリアムス神学館

〒602-8011 京都市上京区烏丸通下立売上る桜鶴円町 380

Tel 075-431-5406 / E-mail : info@williams-theol.com

Fax 075-431-5445 / <https://www.williams-theol.com>
